

学生を主体とした実践的キャリア教育のプログラム実践に関する研究 課題 I

背景・目的

就職活動は本来、大学教育の集大成として、社会に出て行く学生自身の自己学習の機会でもある。本学科では、就職活動をそのような本来の機会とすることを支援するために、2012年に生活文化デザイン学会のなかにキャリア研究会を教員と学生有志により設置した。本課題では、キャリア研究会設置を、学生自身が主体的に就職活動に取り組み、学びの機会とすることを支援する場としていっそう発展させることを目的とする。

実施内容

今年度は下記の3つを中心に実施した。

1. 就職活動に必要なスキルや情報を身につけるためのグループワークの実施

参加学生が主体となって、顧問のキャリアカウンセラーの指導のもとに、自己分析、グループディスカッション、模擬面接などをグループワーク形式で、月2回のペースで計17回、定例研究会を開催した。

2. 社会で活躍している先輩と語りあう場の開催

11月6日、住宅メーカーで働く先輩を囲み、仕事の内容、在学生へのアドバイスなどを中心に語り合う場を設けた。



3. 職場訪問の実施

9月9日、地域に密着した楽天野球団のホームグラウンド K スタを視察し、野球団で働く女性たちと交流した。



9月10日、栗原市ジオパーク予定地、栗原市役所、などを視察し、地域と地域に根差して働く自治体職員や農業委員と交流した。



結果及び考察

活動の中でリーダーが育ち、内定獲得後も研究会に参加し、同年齢や後輩のメンバーの相談や指導にあたるなど、大きな成果を得ることができた。今年度の就職率が特筆すべき効率を見せたことの要因として評価できる。今後の課題としては、平均15名程度の参加者の増大とリーダーの継承があげられる。